

経営者への活きた言葉

社員の幸せを考え社会に迷惑をかけない経営 堀越寛(伊那食品工業会長)

1. 世間から注目してもらえるのは、経営理念がずっと変わってないからでしょう。ちなみに伊那食品工業の社是は「いい会社をつくりましょう」。「良い」ではなくても、ひらがなの「いい」。みんなで日常会話の中で「いい会社だね」って言って下さるような会社にすること。「良い会社」というと、売上高だの利益だの株価だの、経営上の数字で優秀な会社というイメージでしょう。そうじゃなくて、うちが目指すのは「いい」。
2. この「いい会社をつくりましょう」を社是にして、もう30年経ちます。会社はどうあるべきかをいつも言っています。あるべき姿、「道」ですね。会社の道とは何かといえば、一人でも多くの社員を幸せにすること。だから人件費はコストではありません。より多くの報酬をあげて幸せにする。そのための手段です。実際に給料もボーナスも毎年上げています。一度も減ったことはない。もちろんリストラもずっとなしです。
3. そして社会に迷惑をかけないようにすること。この絶対人に迷惑をかけないようにすることには、一本筋を通しています。例えば、社員が朝、車で通勤するときは渋滞を招く右折は禁止。仕入先に振り込むときも、送金料を引かないで振込みます。これからも会社を少しずつ成長させて堅実な経営をしていきます。

(参考:「週刊東洋経済」2011年 4月23日号)

経営者のための営業学

他社を引き離すインドのスズキ

1. 東日本による部品供給不足から、インドでもほとんどの自動車メーカーが減産を余儀なくされている。そうした最中、スズキの子会社、マルチスズキは4月、5月と減産どころか、増産体制を矢継ぎ早に推し進めている。同社は現在、約700億円を投じてハリヤナ州マネサールに第2、第3の工場(年産各25万台)を建設する考えだ。
2. 今年と来年の2年間で2300人を採用し、従業員数も現状の27%増となる1万1000人規模となる。しかも話はそれで終わらない。2015年までに年産250万~300万台体制の実現を目指し、来年4月までに新たな増産計画を策定する。マルチスズキの現地調達率は9割超。同社はいまやグローバルリスクに極めて強い稀有な自動車メーカーともいえる。

(参考:「WEDGE」: 2011年6月号)